

第6回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

1	開催日時	令和5年7月24日(月)
2	開催場所	ながふじ学府小中一体校 ランチルーム
3	出席者(向陽学府小中一体校開校準備委員)	
	学識経験者	元校長 前向笠地区長
	地区代表	向笠地区長 岩田地区長
	保護者代表	向陽中学校PTA代表者 向笠小学校PTA代表者 大藤小学校PTA代表者 岩田小学校PTA代表者 大藤こども園PTA代表者
	学校代表	向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長
4	出席職員	教育長
5	事務局	学府一体校推進室

- ながふじ学府小中一体校 施設見学
資料を基に概要の説明後、施設内を見学。施設見学終了後、準備委員会開催。

会議概要

1 教育長挨拶

本日はお忙しい中、また暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。会議に入る前に、今日はながふじ学府の見学をしていただきました。9年生までであったと思います。この校舎の中には、以前お話をさせていただきましたが、豊田北部小学校と豊田中学校が、この建物の中に1年生から9年生まで入っているという状況です。もう1つ、豊田東小学校が別の場所で教育活動を展開しているという向上型学府一体校B型という運営で、令和3年度にスタートをしました。学府一体化構想のコンセプトというか、趣旨なんです。今まで磐田市の中で、小中一貫教育、小学校1年生から中学校3年生まで、1つの学府の教育目標のもとに、1年生から9年生まで教育をしていきたいと思いますという小中一貫教育と、コミュニティ・スクール、地域の皆様方との連携の中で、地域の皆様方からの意見を伺いながら、また、地域の皆様方とのつながり、関わりを深めながら、学校の立場から言うと、地域の皆様方のお力をお借りしながら、子供たちのより良い教育環境を作っていきたいと思いますという教育を、小中一貫教育は平成24年度から、コミュニティ・スク

ールは、平成 25 年度から磐田市で段階的にスタートしてきています。1 番の狙うところは、つながりの深化という言葉で集約をしてるんですが、子供たち同士の、小中学生同士のつながり、もちろん縦のつながり、それから、コミュニティ・スクールに代表される地域の皆様方と学校、もちろん、子供たちとのつながり、それから、先生方、教師のつながり、今までは、どうしても小学校と中学校の建物の違うところで教育活動、もっと言うと、小学校が 6 年間、中学校が 3 年間という枠組みの中でやっていたものを、とにかく先生方のつながりの中で、9 年間で子供たちを育てていきたいと思いますというコンセプトの中で進めてきています。そういう流れがあって、この学府一体化構想、新時代の新たな学校づくりと言っているんですが、これから社会の変化が激しい中で、先行きがなかなか見えない中で、子供たちにどんな力をつけていったらいいだろうかと考えたときに、やっぱりつながりから学ぶことということが非常に多い。人間関係が少し希薄化してくる中で、そういうつながりを大事にしましょうというところで、今まで行ってきた小中一貫教育、それからコミュニティ・スクールをもっともっと進化していこうということで、学府一体化構想がスタートして、令和 3 年度にこのながふじ学府が、それから、令和 8 年度開校を目指していますけれども、向陽学府で進めています。その中の建物としての特徴は、1 つが多機能型。この場所もそうですし、地域連携室とか、それから、放課後児童クラブ、ながふじでは図書館、そこに地域の皆様方に来ていただいて、そこで子供たちのつながりを、また学校とのつながりを深めていくという多機能型というところと、あと、カリキュラムを工夫しましょうというところを学校の方で進めています。向陽学府についても、今、多機能型ということで、実施設計が、多分今月いっぱいぐらいを目標に、もうそろそろ完成という時期に来ています。それから、工事の方も、浄化槽とかテニスコートとか、整備の方が始まっています。なるべく夏休み中というところで進めています、なかなか終わりきらずに、2 学期にかけて工事を行なっていきますが、できるだけ子供たちの教育に影響を与えないよう配慮して進めていきます。そんなつながりの中でというところを、頭の中に置いていただきながら、ぜひ、開校準備委員会の中で、協議を進めていただけると大変ありがたいなと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。今日は、校章と校歌の協議が、前回に引き続いての協議になると思います。ぜひよろしくお願ひします。

2 議事

(委員長)

本日は暑い中、そして平日の午後、お仕事をされている方につきましては、ご無理なお願いで、自分の時間をこちらの方に向けて頂きましてありがとうございます。それと、前回の会合の最後に、できれば「ながふじ」見たいと言ったら、こんな形で実現できたことも嬉しいなあと感じております。それでは議事に入っていきたいと思ひます。まず資料がありますので、資料の 1～4 をまず一括して事務局から説明していただき、それについてのご質問等をまとめて後でお伺ひするようにしたいと思ひます。

(事務局)

配布した資料について説明。

資料1は、前回皆様から出た意見を議事録からまとめたもの。

資料2は、校名案アンケート速報（公表前のため、会議終了後事務局にて回収）。

資料3は、前回示した例以外の県内の小中一貫校の例を少しまとめたもの。

県内唯一の義務教育学校の伊豆市立土肥小中一貫校です。校歌は土肥小学校と土肥中学校の校歌がそれぞれ1つずつ、さらに愛唱歌というものを作成しています。校章については、少し、デザインが凝っているような校章ということになっています。

沼津市立長井崎小中一貫校、これは小学校と中学校に分かれている併設型ということです。校歌については、令和元年度長井崎中学校区小中一貫校化推進委員会での協議を経て、保護者アンケートを実施して、これまでの長井崎中学校の校歌を長井崎小中一貫校の校歌とすることにしたので、1曲のみということになります。校章については、一貫学校の開校に向けて、長井崎中学校区小中一貫校化推進委員会において、小中一貫学校の校章について協議を行って、長井崎中学校の校章のところに、小をつけるというところで、小中という表記を、デザイン化した物にしたということで、校章も1つになっているというものです。

沼津市立の静浦小中一貫学校です。これも小中学校の物です。これは、シンガーソングライターの中山氏に児童生徒、保護者、地域の方が選んだフレーズを入れて校歌を作成していただいたということで、歌詞も曲もこの方をお願いしたというものです。校章についてですが、これは、小中学校の児童生徒からデザイン画を募って、それらをもとに推進委員会での検討・投票を経て、校章のデザインを決定したというものです。

沼津市立戸田小中一貫学校です。これも小中学校です。戸田中学校卒業の佐藤さんが、児童生徒のアンケートを参考にしながら、校歌を作詞したということです。作曲は、佐藤氏が監修するNHKのピタゴラスイッチの楽曲を手掛ける方をお願いをしたというものです。校章は児童生徒アンケートの結果から決定をしているということで、これも校歌も校章も小中一貫学校で1つずつということになります。

静岡市の施設一体型としては、いわゆる山間地の小さな小学校、中学校を施設一緒にしているところが多い。

静岡市立井川小中学校、小学校と中学校で校歌があって校章がある。

静岡市立大川小中学校も校歌がそれぞれあって、校章も2つあります。

静岡市立玉川小中学校も同じです。校歌がそれぞれあって、校章が2つ。

静岡市立梅ヶ島小中学校は、校歌が小中で1つ。校章が2つというものです。

静岡市立大河内小中学校、それぞれの校歌があって、校章も2つある。

静岡市立両河内小中学校、清水区の小中学校です。校歌については小中で1つです。これは令和3年度に、4校の全児童生徒と地域の皆様から歌詞に入れたい言葉やフレーズを募集し、それらを集約して歌詞ができた。なお、歌詞をまとめたのは当時の中学3年生

がまとめたということです。作曲については、清水区在住の作曲家にお願いして校歌を完成させたということです。校章については、一緒になる前の小中学生、全児童生徒でデザインコンテストを行い、中学3年生の物が選ばれて、その作品をベースとしてデザイン化したという流れですので、校歌・校章ともに1つずつということになります。

浜松市立引佐北部小中学校については、校歌はそれぞれ小学校、中学校にあって、校章も同じように小中別の物ということになっています。

資料4は、校歌・校章の作成方法について、事務局案としてまとめたもの。

校歌の作成案1、向陽中の校歌を一体校の校歌とする。

作成案2、歌詞を公募して、作曲を委託する。

作成案3、残したいフレーズ、入れたい言葉等を募集して、作詞作曲を委託する。

作成案4、歌詞を小中学生で作し、作曲を委託する。

校章の作成案1、向陽中の校章に小をいれる（校名が向陽小の場合）。

作成案2、小中学生に公募する。そして、デザイン化は委託する。

作成案3、小中学生、向陽地区の地域住民の方に公募して、デザインは委託する。

作成案4、市内もしくは県内に公募をする。

公募の場合、どういうことを検討するのかということ、公募条件の検討であるとか、選考・選定方法はどのようなものか、採用者への謝礼等、どのあたりまで出すのかということ。それから、専門家等への依頼の場合、依頼条件の検討であるとか、誰に依頼をしたらいいのか、あとは謝金等の検討ということになります。

作成方法によるメリット・デメリットについては、前回資料と同じ内容。

公募、それから、専門家に依頼する、もしくは、教職員等に依頼するという場合には、それぞれメリット・デメリットがありますので、そこをどうするかということをごさまでまた意見を言っていただければと思います。今日はぜひ、方向性を決めて頂いて、どういう作成方法にするのか。できれば、準備委員会の考えについて決定されていくといいかなと思いますので、協議のほうよろしく願いいたします。

(委員長)

ご質問を受ける前に、校名案アンケートの集計結果について確認と聞きたいことがあるのですが、この集計結果は、配布数が2,900ということなので世帯アンケートですよ。一方、小中学校で4年生以上中学3年生までの子供たちに聞いた結果も集計されているのではないと思うが、それについては、ここにはないように思うが、もし、可能であればその辺の様子も聞かせていただいたうえで、ご質問を受けたらどうかと思いますが。

(事務局)

資料が手元にないので、記憶での話になってしまって申し訳ないですが、子供たちのアンケートについての結果は、大体似たような結果にはなりましたが、子供たちの回答には、どちらでもよい、分からないという回答が、世帯アンケートより多く、記憶だと4割近くではなかったかと、それでも1番多かったのは向陽小が良いという回答だったが、

世帯へのアンケートより、分からない、答えられない、分からないという回答が多かった印象です。正確な数値でなく申し訳ありません。

(委員長)

分からないという回答が多いのではないかとすることは予想していたことではあるが、向陽小が良いという回答がかなりあったということですね。分かりました。ありがとうございます。

皆様方から、校歌と校章についての意見交換ということですが、まず、この資料に対するご質問等をお受けしたいと思います。どうでしょうか。

(委員)

色々なやり方が想定されるんですけども、例えば部外と言うかプロの作曲家にお願いするとか、その謝金とか、あと公募して校章なんかを採用した方にお礼が入るとかっていうのがあったんですが、そもそも、校章を作る校歌を作るってところで、予算っていうのは決まっているのでしょうか。

(事務局)

予算につきましては、来年度、令和6年度の市の予算の中に入れようと思って、現在検討しているところなんですけど、ただ方向性がまだはっきりしてないと思うので、もしプロに頼むとしたら、これぐらい。というのを、今まで、市歌とか市章とか、デザイン化したり、作曲したりということをやってきたので、それをもとに、まずは算定していこうかなと思っております。予算化については、来年度の予算には入れていこうというふうに思っています。

(委員)

校歌についてはやはり、作りたいのですが、出来たら地元に関係ある方に作詞・作曲をお願いできたらいいなと思っています。もしくは、入れたい言葉、フレーズとかそういうものを公募して取りまとめる、作詞に関しては、そんなふうにしてもできると思いますが、作曲に関しては、ちょっとアート系のことは全く知識がなく分かりませんので、出来たらその道の方、専門の方、かつ向陽中学もしくはこの3地区に在住、もしくは出身者の方みたいな人をお願い出来たらいいのかなと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

はっきり、こういう方向でどうかっていうことを、ちょっと言い切れるものじゃないかなと、こういうふう感じて、ここに来て、軽々には言えないというのが1つの感想ですが、今まで150年、小学校の形が出来て、今後、これから150年というふうに考えると、これからの子供たちが、やっぱり歌い継いでいくような、そういう校歌がいいのかなって思うのと、一体性というか、そういうことを考えると、向陽中学があるので、向陽中学の歌をと感じるんですが、ちょっと小学校には向陽中学校の歌う文句が難しいんじゃないかなとちょっと思ったりするので、それを1つにというふうにもちょっと感じ難いかなとしたり、感想になっちゃうんですが、コンセプトで日本一優しさが育つ学校と言われて

おりますので、そんなこんなで、子供たちが歌い継いでいけるような歌詞を、それと作曲をしてもらう先生がいたらどうかと。それで、初めは、子供たちと学校の先生でと思っていたが、今、学校は大変忙しいということなので、できれば、専門家みたいな方が身近におられるようでしたら、そういう方をお願いするような形でどうかと思っています。ちょっと決めきれずにいます。申し訳ない。

(委員長)

今、3名の方から、予算の件だとか、校歌の決め方だとか話がありました。もうすでに意見交換のような内容になっていますので、質問に限らず、今日は校歌と校章の事なので、色々なことを是非言っていただいて、方向性が果たして定まるかどうか分かりませんが、皆さんの考えを遠慮なくお聞かせ願いたいということで、意見交換の方にもう入っていったらいいんじゃないかなと思います。そういう中で、資料についてご質問等あれば、途中でも結構ですので、色々聞いていただければと思います。一応、校章と校歌のタイムリミットが、来年度、6年度末までには決めたいということでしたよね。いわゆる1年半という期間になります。突然には決まらない。どうしようかということで、だんだん絞っていきたいなと思っていますので、どうぞ遠慮なくご意見をお知らせください。

(委員)

今日見学をさせてもらって思ったことは、こちらのほうも小学校と中学校が分かれていますというところですけども、例えばですね、中学3年生というわけではなくて、9年生というように書いてありました。要は1年生2年生と行って、最後が9年生というところで、こちらの方も先ほど教育長が話された小中一体というところで動いていると思います。前回、何も分からずに聞いたら、小学校と中学校は分かれていますよという話がありましたが、結局、コンセプトを考えると、小学校も中学校も関係ない、1つなんだというところが、大きなところかなと思っていますので、私の意見としては、小学校と中学校、校歌と校章を分ける必要はないと考えております。1番いいのは、もともとある向陽中学校の校歌と校章を使えばいいのかなと思います。先ほど、小学校の子が中学校の校歌が分かるかなというような話がありましたが、今の小学生皆が自分の小学校の校歌の意味が分かるかと言えばどうかと思います。最初は呪文のように歌っていただいて、最後、中学卒業するぐらいでこんな意味があったんだというのが分かればいい。それくらいでいいのではないかと考えています。あと校章なんですけれども、やはり、中学の中という字が付いていますので、個人的な意見としては、逆に中という字を取って、学だけにして、小学校も中学校もない1つだよということにしてもいいのではと思います。ただ、新たなデザインを作ってもいいのかなとも思いますし、じゃあ誰が作るかと言ったら、出来れば今いる中学生とか小学校5・6年の子に作ってもらいたいというふうに考えています。理由は、これから向陽中学校はプレハブに変わっていきます。中には新しい校舎で学ばずにそのまま高校生になる方もいます。そんな方に、自分たちはちょうどこのような時期になってしまったが、自分たちが作った校章を受け継いでもらいたいというよう

なところで、広く公募するのではなくて、今の中学生とかに、校舎は駄目だったけど、校章が残っているというような後々いい思い出ができるのではないか、それも1つかなと思っています。

(委員長)

ありがとうございました。要は、1つにするか、別々にするか。そこが結構大きいと思います。たくさん資料いただきましたが、小学校に校歌や校章があって、中学のほうにも校歌と校章がある。これは小中が1か所になったのでそのまま残してあるという感じじゃないですか。そういうところは大体2つあるんですね。いくつかの学校が統合したような所はどうしようもなく作らないといけないので、1つあるいは、小中で1つ作っていくという感じだと思う。向陽学府のようなスタイルの学校は、たくさん説明してもらった中では似たようなところがありますか。

(事務局)

1 ページ目の沼津市立長井崎小中一貫学校、それから最後から2番目、静岡市立両河内小中学校、これが向陽学府と同じような形で、複数の小学校が1つになって、1つの中学校と、施設一体型の小中一貫校を作っているというものです。今言った2つの事例については、校歌、校章とも1つずつとなっています。

(委員長)

校歌というのは、始業式とかいろんな場面で歌って、校章は、昔は学生帽というのがあって、今はどこかにデザイン化されたものが貼ってあるくらいだが、なくてもいいとは言えない、必要性は感じるんですが、1つにしますか、しませんかくらいからいかないと、まとまっていかないのではと思います。どうぞ、遠慮なく、校長先生方も言ってください。

(委員)

私は、校長先生も別々にいらっしゃいますし、校歌・校章は別にしても、これから出てくる制服とか体操服とかあるものですから、出来たら、小学校と中学校、同じ所にいて、1年生から9年生というけど、それぞれ卒業式もあるし入学式もあるので別々にしたい。そうすると、水掛け論になってしまうかもしれませんが、両方校章も校歌も別々に欲しい。これは私の希望です。

(委員)

実際に実務的にやられる先生方の意見はどうかなと思います。外からは色々と言ったりしますが、一体校といっても寄り合い校なので、それでも一体性を考えると、余りあっち向いたりこっち向いたりできないので、一体性というのをどう感じるか、小学校のPTAの方がそういう理解をしていただけるものなら、そうかなと思うんですが、こちらが無理やりこうでなくてはいけないと言って、意義がある感じでしょうかなく受けるようではどうかと思ったので、むしろ主体は、現に中学生や小学生というか、そういうPTAの方なので、ご意向というか子供を通じた意向みたいなものがあるのなら、そういう意見を尊重したいと思います。

(委員)

今、岩田小学校には校歌があります。私が岩田小学校に通っている頃にはありませんでした。なかったからどうなんだってことですが、でも今の子供たちが地域の地域づくりへ来て一緒に年寄りなどと遊んでくれたりする時に、結構校歌を歌ってくれるものだから、やはりいいなと思っているので、小学校も中学校も校歌があった方がと感じています。そんなに校歌って難しいのかね。鼻歌交じりで先生できませんかね。これから未来永年ずっと使えますから、責任はあるかと思いますが。先生どうですか。

(委員)

残したいフレーズがとかメロディーをとという時に、そこから作り始めるのがとても難しいなと思って、この3校の例えば坂田寛夫さんは、童謡「サッチャン」とかを作詞した方なので、岩田小の校歌は、割と子供に馴染みやすい歌詞になっています。だけど、大藤小と向笠はちょっと難しいというか、1年生が歌うにはかなり難しい。でも、1年生の音楽で勉強すると覚えていく。それを先ほど呪文のようにして覚えてというお話がありましたが、覚えちゃうんです。結論から言うと、中学と一緒にでもいいのかなという気持ちに私の中ではちょっとなっています。難しい歌詞、中学の歌詞であっても、9年生で卒業する頃には、こういう意味だったんだと分かるかなと思います。実は、大藤小に関わってくれてる地域の方で、放課後子ども教室をやってくださっている方が、私は大藤小の卒業生なんだけど、小学校の時は全く意味が分からず歌っていたと、でも、今も口ずさんで、こういう意味だったんだと、今になって分かるようになったよという、かなり年配の方からそういう話を聞くと、向陽中の校歌を歌うというのもありかなと思ったりもしました。前回、私は、今どきの子供たちが好むメロディーラインのものが良いかなと思ったのですが、なかなかどの作曲者にとくと難しい。今週末にちょっと音楽の研修で作曲家の方をお願いしてるので、合唱曲作るような方もいらっしゃるんですけど、作曲家の方によって作るものが違うので、どの方に頼むかというのは難しい。しかも、向陽地区出身の作曲家の方がいらっしゃるのか、全然知らないのが難しいなと思います。向陽中のものをと先程おっしゃったような方法もあるのかなと個人的に今思っています。

(委員)

今もう、学府の中学校と3つの小学校で先生たちが集まって決めてることが結構あります。一体となったその中で、傾向としては、大きなことは揃える。細かいところはやはり小・中で分けて考えなきゃいけない。違うことをやっていかないと最初は難しいねというところが出てくるかなと思います。大きなことというのは、例えば、学府として一体校としてこういう子供たちを育てていこうとか、それに向かって先生たちが、校内で研修をしたりするわけですけど、その研修のテーマという大きなテーマは小学校も中学校も一緒にいいじゃないかとかそういうところが出ています。なので、校歌とか校章というのは大きなものというところになるかなと思うんですが、どんな子供を育てたいというところと、似てくるところもあると思います。学校のシンボルマークだったり、校歌という歌

だったり、個人的にはそうなってくるとそういうものは一緒でもいいのかなと思っています。

(委員)

自分は今後、この向陽学府の一体校というのは、小学校と中学校が別々でいくというふうに考えています。つまり義務教育学校にはならない。一体校という名前が残っていくとしたならば、やはり2つの学校であると考えています。今おっしゃったように、大きな概念として9年間で育てるというのは、もちろん大賛成なんですけど、やはり2つの学校があるというふうに自分は捉えています。今後、磐田市がどういうふうな小中一体校や一貫校を作っていくかということはまた置いといて、今回の資料から見ると、結局作る時にそれぞれの立場でそれぞれの考えで決めてよいというふうに考えて、他のことは、そこまで考えてなくていいよということであるならば、自分が今、頭の中で整理してるのは2つの学校であるということがありますので、概念的には、教育目標に向って9年間で育てていく1つの建物にあると考えた場合、自分は両方とも別々であったほうが良いと考えます。校歌については、今ある3小学校の校歌のフレーズを見てもらったり、新たにフレーズを募集したりして、詞も曲も委託する。校章についても、向陽小ということになるのであれば、向陽中のものをベースに小というものでもよいということで一体感を出すっていうような形がいいんじゃないかなというふうに、今資料を見たり皆さんのお話を聞いて思っているところです。

(委員長)

学校名と比べると、決め方は自由、色々、こうでないといけないというものもなく、法律的な決まりもない。要はここでの皆さん1人1人の判断が方向性になっていく。このことについてのプロはいないので、1人1人の意見をあわせて、どちらの方向を向くかということしか分からない。私が知る限りで向陽学府の中に作曲家というイメージはない。音楽の先生のような方は数名いるかなという感じはします。ここで会えて名前はいませんが。これ大枚をはたいて委託して作ってもらわないといけないか、皆で作るような校歌・校章でいいのではないかと個人的には何となく思っています。

(委員)

新時代の新たな学校をということでスタートしてる小中一体校なので、できたら、小学校は新しくスタートということで、自分は委託しながら作ってもらったらどうかなという考えでいます。中学校の校歌は、気に入っているので別にこれでいいのかなと思ってるんですけど、小学校はせっかく新しくなりますので、新しい校歌ができるというのも1つありかなと思っています。小中学校で、卒業式や入学式とか、いろいろと式をやる中で、小から中へつながってるけどステップアップするということで、校歌が変わるといいのかなあと。もしくは校章なんかも中学生なんかに公募すれば結構、今の中学生は結構いろいろ考えているので、いいのが出てきて、小学校こんなのがいいじゃないのとか、そういうことで、デザインが決まってくると、皆で作ったねという感はするのかなと思っ

てますので、実際、自分の中では別個でちょっと頭の中では思っています。中学になると、ちょっともう1つ変わって格好良くなるんだよねとかという気持ちがあると、あるのかどうなのか分かりませんが、そんなことをちょっと考えています。ただデザイン的には、今の中学校の校章も気に入っているの、ベースは、これ、割とよく考えたなど、実際思っています。校旗にもこれ入っているの、新しくなると校旗も変えなきゃいけないのかなとちょっと思ってるんですよ。あれもあれで気に入っている校旗なので、自分的には、今のデザインは残し、小学校は考えてやってもいいのかなとちょっと思っています。

(委員長)

向陽中の校歌ですが、ちょっと、確証はないんですがこうじゃないかなと。なぜ、尾崎先生と中島先生が作ったかという、尾崎先生は、見付中学、今の磐田南高の初代校長なんです。中島先生は、見付高等女学校、今の磐田北高の音楽の先生で、いい組合せだった。それがなぜ、向陽中の校歌作ってくれたのか、他にもたくさん作っているのですが、実は尾崎先生は、校長をやめた後に、戦後、磐田の教育委員会に勤めていらっしやった。校名は地域の人に公募して作ったようですが、校歌については頼んだのではないかな。新制中学とか新しい学校が方々にできるので、これ、私の想像です。

それとあと歌詞の3番に「朱のいらか」と、ちょっと何のことと思う歌詞がある。これは昔の校舎の屋根が赤くて、そこに光が入ってこのようになっている。それが例えば小学校の校歌になった時に、時代が違うので、何のことだろうと矛盾するような歌詞にならない方がいいが、一緒でもいいかなとも思うけど、もうこの歌詞が出来て80年くらい経っている。この3校で新しい小学校が出来るので、この際、あまりお金かけなくてもいいから、作ったらどうかなと思ったりもする。あくまでも尾崎先生とか向陽中の校歌とか、今の話には憶測が入っています。

もう1個、向陽中の校長先生から、校章がなぜこれになったのかと聞かれたが、それは分からないと答えたんですが、今年96歳になる、開校して1、2年経ってから居た先生がいる。その方がおっしゃるには、自分が居た時にはもう校章は出来ていたと。なので、どうやって作ったかは分からないですね。磐田市史とか学校の本とかに書いてあるかもしれないが、一応、参考に。

(委員)

向陽小になる前提であれば、同じ向陽なので1つでいいかなというのが僕の意見です。先ほどの意見にあったように、小、中と付けるのではなくて中を抜いた校章で、中学校の校歌でもいいのかなというのと、完全に全く新しいものを両方1つ作るのもありかなと思います。向陽小以外になった場合に、別々の学校っていう考え方を出すと、小学校自体3校がなくなって新しくなるので、そこはやっぱり新しい校章と新しい校歌を作った方がいいのかなと思っています。その校章に関しても、例えば、大藤、向笠、岩田の校章から何か1つずつパーツをとったような、3つがくっ付いたんだよっていうのが、どこかに残るようなものがあるといいかなと思います。

(委員)

授業の一環でコンテストというようなところで、校章を決めるとかっていうところができるばいいのかなっていうのと、そこでいいデザイン出るのかっていう、ちょっと不安もありましたけど、自分のところではそういう形で公募出来たらなというところを思っていました。校歌に関しましては、ちょっと中学と一緒にでもいいのかなっていうところを思ってきたんですけど、皆さんの意見も聞いていろいろブレブレにはなってしまいましたけど、ここに来るまでにはそういうような考えで来ました。

(委員)

私個人の意見としては、もう向陽小になるものっていう考えで、一緒にいいんじゃないかと思ってしまうんですが、こども園の保護者代表として参加してるので、前回の準備委員会の後に、園のほうに協力してもらって、保護者全体にアンケートを取りました。保護者が関係しそうなこれからのこと、これから話し合っていくスケジュールにあった、校名について、校歌・校章について、通学路について、PTA組織運営について、スクールバスの運行について、制服・体育衣料の検討について、このうちでどれに興味関心がある、気になっているのか、複数回答可能でアンケートをとったところ、残念ながら校歌・校章について興味を持っている方は、1人しかいなかった。保護者としての皆さんの考えを聞き取ったということもあったんですが、何故か、ちょっと残念な結果になってしまいました。

(委員長)

多分そうなると思います。歌やデザインより、バスとか通学路に関心が強いと思います。いわゆる校歌・校章について、重みというか、そこに住む人、子供たちも含めて、どの程度理解とか、こっちが勝手に決めてもいいよとか、その辺をいかに見定めて決めてかないといけない。学校名というのは結構大きいので皆様にアンケートをとりましたけれども、意識的にはそんなに高くはないことかなというのは、今、おっしゃったとおりだと思います。それだけに、このまとまりというか方向性が結構大きくなる。

(委員)

今、うちの地区では、全住民アンケートというものをやっているのですが、意見を色々と地区に関して、例えば助成金についてどう思うか、環境はどうか等、いっぱい質問して書いてくれた回答を見ると、3者3様っていう言葉がありますが、100人で100人とも違います。だから、なかなか皆で話し合っ、1本にするというのは難しい。今ここでの話でもそうだと思いますが、皆さんそれぞれの考えを持っていらっしゃる。それが良いとか悪いとかと言うつもりは全くないので、先ほど皆さんがおっしゃったように、もうちょっと時間をかけて、校歌はどうしようか、校章はどうしようかと、1つ1つやっていった方がいいかなと思ってます。最後は多数決なんだろうけど、その前に議論を尽くしたほうが良いと思います。

(委員)

小学校と中学校で同じ校章・校歌になると、もしなった場合に、中学校も校歌を変えるということも考えられることですか。ありえますか。

(委員)

僕の考えですけど、校歌・校章とか、自分も卒業したとこのことあまり覚えていなくて、僕が子供のときは、卒業してから何年かは覚えてるんですが、今はもう全然覚えていなくて、それはどうなのかという話もあるんですが、小学校・中学校はもちろん違うところだったので違ったんですが、高校と大学が付属だったので同じ校歌だったんですね。そういったことを体験した中で、小学校と中学校が、今回、同じ一体校としてできるので、同じ校歌で、今回、新しく作ってもいいんじゃないかなというのが僕の意見です。例えば授業のところで考えると、小学生で1回校歌を覚えれば、中学行ってまた覚え直す必要もないですし、そこに割く時間も、音楽の授業も少なくて済むでしょうし、9年間同じ校歌を歌うということで、より親密感、愛着ができるのかなと個人的には思いましたので、どちらでも作り直してもいいんじゃないかなという思いであります。恐らくその予算的などころでも、校歌・校章を作り直したとして、2,000万、3,000万も掛かるような話ではないと思うので、それが100年150年というところを見据えれば、磐田市の財政的に問題なければ、そこは作り直してくれてもいいんじゃないのかなというふうには思います。

(委員長)

事務局からなるべく方向性をとの話があるがどうでしょうか。ここで多数決というわけにはいかないと思いますが。

(委員)

事務局が今日出してくれた、作成案が四つ載ってる資料4の、この案というのは、先ほどの発言を聞いて思ったのは、小学校の校章をどうするか、小学校の校歌をどうするかという案。要するに、中学校はもうどういう形になろうが中学校の校歌と校章は残る。だから小学校の、校章・校歌をどうしようかという案ということでよろしいでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、中学校はそのまま残ることから、校章も校歌もそのままという想定で、あくまでも新しい小学校の校章と校歌をどうするかという案を示した資料となっています。ただ、今保護者の方がおっしゃったように、中学校を変えるという意見も出てきたので、それは別に、実際そういう小中学校もあるものですから、そういった意見も取り入れながら、方向性が出せればというふうに思います。そこに固執するつもりは全くないので、今の中学校の校章と校歌もガラッと変えて、1つにまとめていくというのも1つの案なのかなというふうに思っています。

(委員長)

向陽中の件を固定的に考えずに、要は1つにするか、別々にするかというどちらかなんですよね。1つにするか、2つにするか。2つにするということは、小・中別々にすること。

(委員)

皆さんの考えをそれぞれ聞いて、なるほどなという感じがしましたが、向陽学府の場合は、本当に、小学校・中学校それぞれだと言っても、一体ですよという考えだったら、本当に今までの歴史がある中でも、ここからご破算とは言わないけど、今までの土台の上に、また新たに生まれ変わるという、小学校だけの校章や校歌というのではなくて、中学も一緒にここから再スタートしようというそんな考え。ちょっとエネルギーがいるかと思いますが、ここに来るまでは、小学校をどうにか楽に変えたらどうかなと思って来たけど、せっかく皆さんの中に、一緒に新たに小学校も中学校も一体となって、時間があるのなら、1つそこで、エネルギーを出したらどうかなと、皆さんの意見を聞いてそう感じました。

(委員)

僕はやっぱり、かわいい無邪気な小学生というのと、大人になりかけのちょっと生意気な、大きくなったなあという中学生と、別々にほしいなと生理的に思ってるだけで、だから何だと言われても困るけど、入れ物、器は一緒になったけど、今ここを見ると1年生から9年生となっているけど、やっぱり別々の子供たち、小学生と中学生が入っている。だから別々のものが欲しい。さっきちょっと言ったけど、制服も体操服も別にしてほしいという気持ちがありますので、小学校に新たに校歌・校章、中学校は変わらないので今のままでいいと僕は思っています。

(委員長)

私からの提案なんですけど、ここで多数決をとって、1つが多いのでそっちにしますというのは、煩雑的なような気がして、あまりそういうことをしたくない。次回は9月ですよ。その間に、今日出た色々な意見を踏まえて、1つにするか複数にするかを決めないといけないので、個人的に考えて頂いて、それを事務局に出してもらい、氏名等は別にして、こうでしたっていうのを示す。次回、そういうやり方というのはどうかなと思うんですが、この場で多数決というのは冷たいような気がする。事務局どうでしょうか。他の皆さんもどうですか。自分独りでそれを決断するっていうのは、つらい部分があると思いますので、それぞれの組織団体があるわけだから、色々役員に聞くとかね。それは、そちらの責任を持って色々自分の考えをこちらに反映させるため、それぞれで考えて頂ければと思うんですが、よろしいですか。目の前で賛成・反対というのは見たくないの。ということで、この辺で、意見交換は閉じたいなと思います。事務局そんな感じをお願いします。

3 連絡事項

(事務局)

次回の開催日時についてですが、9月の中旬以降を予定、また決まり次第、開催通知を送付いたします。次回は磐田市役所西庁舎の3階会議室、時刻は、午後6時半から8時を予定しています。

2つ目です。校名アンケートの結果の取扱いについてですが、校名については、次回準備委員会で検討してまいりますので、資料については、本日、回収をさせていただきます。

3つ目です。通学バスに関する説明会について、現在、いろいろ最終確認をしているところでして、各自治会の家屋調査をした後、対象自治会を再確認させていただいて、想定自治会を確定した上で、説明会を実施したいと考えています。もうしばらくお時間をいただきたいと思います。

4つ目です。向陽中の先行工事についてです。工事については既に始まっています。工事内容については、磐田市のホームページへ掲載済みですので、そちらのほうをご覧くださいだければと思います。また、この件については開校準備だよりでも、お示しをしていきたいというふうに思います。

それから最後、委員長からお知らせがあったように、校歌・校章に関する皆さんのお考えを聞くためのアンケートを送付しますので、また、回答のほうをお願いします。

もし、小中一体校に関するご質問等ありましたら、質問用紙に書いていただいて、また事務局のほうに提出をしてください。